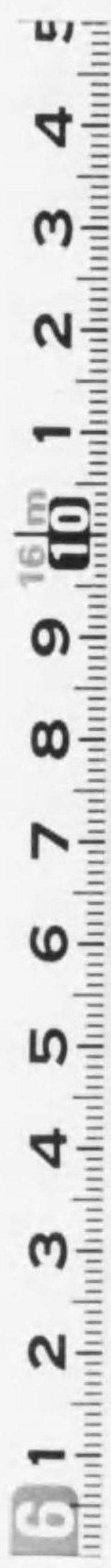


始



319
512

商業簿記教科書

上卷

商學士 吉田良三校閱
商業教育研究會編



東京
文信社發行



特 254
884



商業簿記教科書

上 卷

商學士 吉田良三校閱

商業教育研究會編

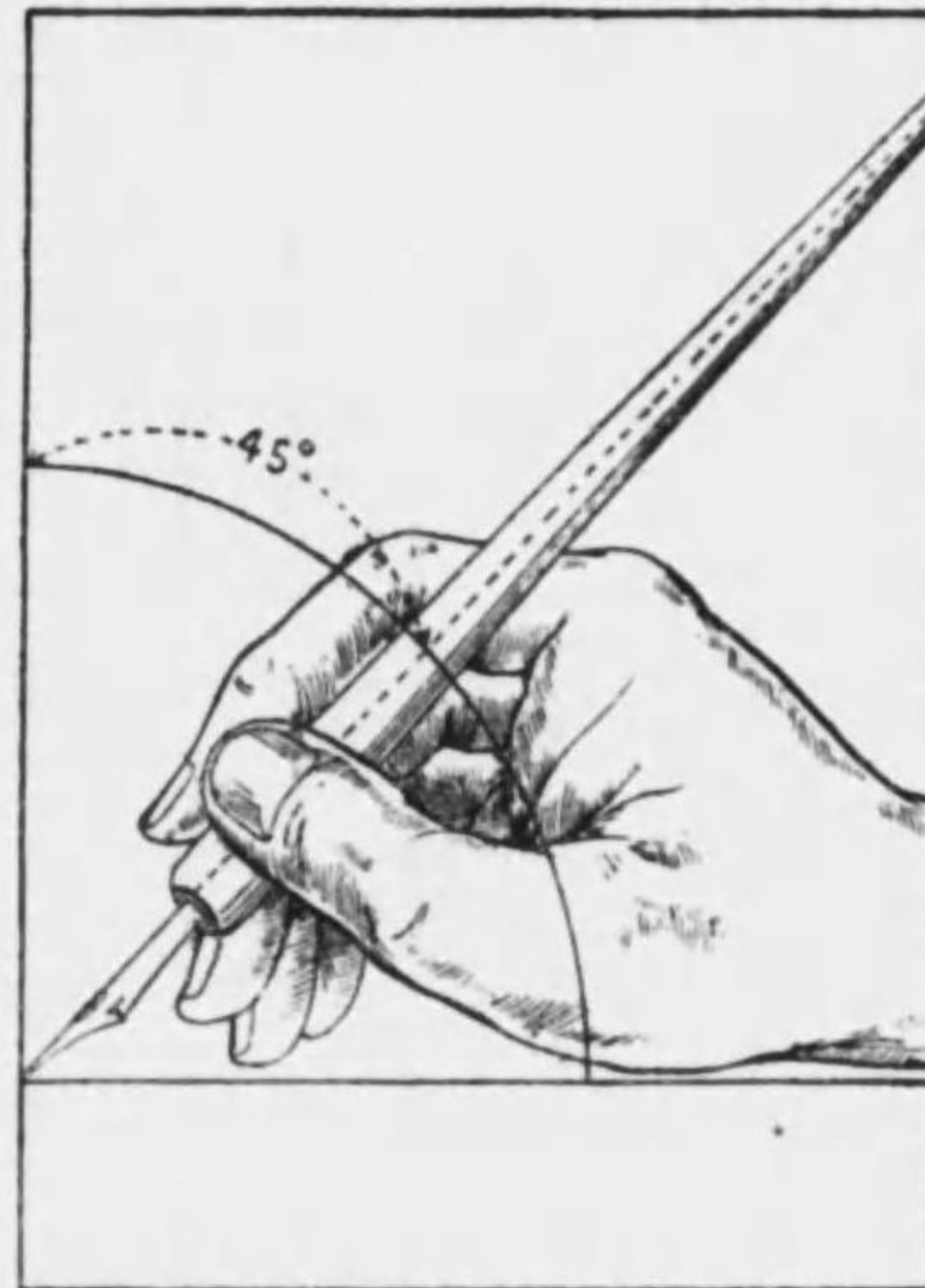
東 京

文 信 社 發 行

1929



文字及び数字を書く時の
ペン軸の持ち方を示す図



線と引く時のペン軸の持ち方
及び定規の押へ方を示す図



数字及び品名数量単價の表はし方

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 0.

@4 @4 @4 @4 @4 @4 @4 @4 @4

B印鉛筆 10打 @40.45 44.50

月印學帽 10打 @49.50 495.—

千葉米 20石 @435.— 4700.—

白砂糖 100俵 @426.50 4265.—

仕 入 帳

昭和 4年	摘	要	内 詳	金 額
5	田中商店	掛		600—
	A商品	30個 @420.—		
14	西川商店	掛		
	B商品	¹⁵⁰ 140 個 @46.—	900—	
		車力賃	15—	915—
22	西川商店	現金		
	A商品	10 ^個 轆 @420.—	200—	
	B商品	30個 " 6.—	180—	380—
				<u>1,895—</u>

序

曩に商業教育研究會に於て、初等實業教育普及の爲め、諸氏相謀り、多年實際的教授の經驗に基き、茲に高等小學校商業科兒童用教本として、商業簿記教科書を編纂せられ、余に校閲を求めらる。今卷を繕いて之を閱するによく簡にして要を竭くし、説明懇篤極めて理解し易し。初めて商業簿記を學ぶ者、及び教授する者にとつて、最も適切なる教科書なりと云ふも過言にあらず。余嚴に校閲し且つ二三の惟ふ所を附し敢て江湖に薦む。

昭和四年三月

商學士 吉田良三 識

商業簿記教科書 上卷

目 次

第 一 章	記帳準備(其の一).....	1
第 二 章	小遣帳.....	2
第 三 章	記帳心得.....	4
第 四 章	記帳準備(其の二).....	6
第 五 章	仕入帳.....	7
第 六 章	賣上帳.....	10
第 七 章	現金出納帳.....	13
第 八 章	日記帳.....	16
第 九 章	元帳.....	21
第 十 章	財産と資本.....	27
第 十 一 章	決算(其の一).....	30
第 十 二 章	決算(其の二).....	32
第 十 三 章	決算(其の三).....	36
第 十 四 章	第一例題.....	39
第 十 五 章	第二例題.....	41
第 十 六 章	第三例題.....	43
第 十 七 章	第四例題.....	45
第 十 八 章	第五例題.....	47
第 十 九 章	前進課程.....	50

商業簿記教科書 上巻

商學士 吉田良三 校閱

商業教育研究會編

第一章 記帳準備 (其の一)

罫線の練習 罫線を奇麗に引き、數字及び文字を上手に書くことは、簿記を學ぶに極めて大切なことである。線を引く時注意すべきことは、(1)ペン軸の上端を軽く摘み、(2)臂を張り、(3)ペン先の側面を定規にあて、すらりと引く、(4)其の時手首を曲げてはならぬ、(5)インキは赤を使用する、(6)丸定規の押へ方は表紙裏の口繪に示す。

數字の練習 數字の大きさは一行の $\frac{1}{3}$ 位とし、罫の上部をあげ、下の線に接して書く、千位にはコンマ(,)を、圓位以下には. — をつけることを忘れてはならぬ。若し圓以下の端數が無い時は ¥5.00の代りに ¥5.- とするが實際的である。

¥ は圓の略字,其故 ¥ 6.- (六圓), ¥ 4.⁵⁰ (四圓五拾錢), ¥ 7.⁵⁵ (七圓五拾五錢), ¥ 3.⁰⁵ (參圓五錢)と書く。罫線や數字は初めの内に充分練習して上手に書ける様にせねばならぬ。

練習問題

- (1) 口繪裏ニ掲ゲタ手本ヲ見テ單線及ビ二重線ヲ引ケ。
- (2) 數字ノ手本ヲ見テ練習セヨ。
- (3) 表紙裏口繪ニ示セル金額ヲ間違ナク讀メ。
- (4) 次ノ金額ヲあらびや數字ニ直セ。

七圓。貳拾六圓四拾錢。五拾參圓貳拾五錢。壹百八拾五圓。參百四拾六圓九拾錢。壹千六百七拾五圓八拾錢。

第二章 小 遣 帳

今日は何程お小遣を使つたか、一ヶ月間に何程の金額になるかを明確に知る爲には、小遣帳を作つて日々の出入を其の都度つけて置かねばならぬ。

記入の仕方

小 遣 帳

昭和年	摘 要	收 入	支 出
5	1 前月殘金	265	
	2 雜記帳 5冊買代金		1—
	5 同窓會々費支拂フ		70
	10 母上ヨリ本月分戴ク	5—	
	15 運動靴一足代		150
	" 妹ニりぼん一掛		50
	20 雜誌實業之日本代		50
	21 山田叔母様ヨリ戴ク	1—	
	24 繪具三個代		24
	27 郵便貯金		3—
		865	744
	本月殘金		121
		865	865

【注意】 (1) (收入合計)-(支拂合計)=(殘金) であるから赤字で表はした。1圓21錢は本月の殘金である。

(2) (支拂合計)+(殘金)=(收入合計) であるから、支拂合計7圓44錢に殘金1圓21錢を加へて收入合計と一致すればよいのである。

小遣帳の説明 金額を記入する欄が収入欄

と支出欄と二つある。受取つた現金は収入欄に、支拂つた現金は支出欄に記入する。其故、収入欄を合計して得た金額は其の月の収入合計を、支拂欄を合計して得た金額は其の月の支拂合計を示す。月日欄には現金の出入のあつた日附を、摘要欄には現金を受取つたり、支拂つたりした筋道を簡潔に書く。収入欄、支出欄の下部にある赤の単線は其の上に記した金額を寄せるとの意味、其の下の赤二重線は締切終の印である。小遣帳を作り記入例をよく見て之を寫してごらんなさい。

第三章 記帳心得

記帳心得 (1)帳簿には順を追うて頁数を記入する。(2)字體はなるべく楷書、假名は片假名を用ひ、明瞭正確何人にも分り易く書く。(3)文字の大きさは行間の $\frac{1}{2}$ 位、大文字は $\frac{2}{3}$ 位、數字は $\frac{1}{3}$ 位とす、行間の上部をあけ下の線につけて書く(口繪裏参照)。(4)記入の都合上、其の頁に餘白を生じた時は、摘要欄を横ぎり斜線を引き、後より

の記入を防ぐ。(5)誤字を訂正するには、誤字に二條の赤線を引き、(口繪記入例 22日参照)其の上部餘白に正しき文字を記入する、ゴム又は藥品等を用ひて抹消するを許さず、若し數字を誤記した時は誤りたる其の數字計りでなく、全部の數字を二條の赤線にて消し、更に書き改むるを要する(口繪記入例 14日参照)。(6)記入して餘白なきに至らば、金額欄の最後の行に赤単線を引き、其の頁の金額を合計して赤線の下に記入し、摘要欄には次葉へと書く。次葉の初の行には前葉よりとかき、金額欄には前葉の合計金額を移記する、之を次葉繰越の手續と云ふ。

練習問題

(1)昨日又ハ一昨日何ヲ買ツタカ其ノ買物ヲ記帳ナサイ。

(2)次ノ事柄ヲ記帳ナサイ。

月 日

5/1 母上ヨリ今月分金貳圓貳角。

7/2 雜記帳三冊買フ、代金四拾五錢也。

- 5/5 雑誌「赤い鳥」ヲ買フ、代金參拾五錢也。
 "/10 電車賃拾四錢支拂フ。
 "/12 あてないんき一箇買フ、代金參拾五錢也。
 "/17 保田叔母様來ラレ御褒美トシテ壹圓戴ク。
 (3) 今月末迄ノ小遣ヲ有ノマ、記帳セヨ。

第四章 記帳準備(其の二)

品名,數量,單價,金額 商品を買入れ又は賣り渡した時,其の品名,數量,單價,金額等を明瞭に記して置かねばならぬ。其等は次の様に書き表す。

品名	數量	單價	金額
B印鉛筆	10打	@ ¥ 0.45	¥ 4.50
月印學帽	10打	@ ¥ 9.50	¥ 95.-
千葉米	20石	@ ¥ 35.-	¥ 700.-
白砂糖	100俵	@ ¥ 26.50	¥ 2,650.-

掛買,掛賣及掛代金 商品を買つて(イ)其の場で代金を拂ふこともあれば,自分の都合の好い時迄(ロ)借りておく場合もある。(イ)の場合を**現金**又は**現金買**と稱し,(ロ)の場合を**掛**又は**掛買**と云ひ,其の代金を**掛代金**と云ふ。商品を賣つた

時も其と同様で,其の場で代金を受取れば**現金**又**現金賣**,貸しておけば**掛**又は**掛賣**,其の代金を**掛代金**と云ふ。

練習問題

- (1) B商品 10個 @ ¥ 5.60 ¥ 56.- ノ意味。
- (2) 掛買ト掛賣ノ區別ヲ答ヘヨ。
- (3) 代金ト掛代金ノ區別。

第五章 仕入帳

仕入帳は商品を経金買又は掛買した時,仕入商品の明細を知る爲に,(イ)日附。(ロ)仕入先。(ハ)現金又は掛の區別。(ニ)品名,數量,單價,金額及び仕入運賃等を明細記入する帳簿である。商品を元入として出資した時も記帳する。仕入商品を品違ひ其の他何かの理由で仕入先に送り返したり,又は値引の承諾を得たりした時にも,仕入金額から其の金額を差し引く爲に記帳する。但し自家使用の目的で買ひ入れた商品は決して記帳してはならぬ。

記入例題

5/5 田中商店ヨリ掛ニテ買入ル。

A商品 30個 @ ¥20.- ¥600.-

"/14 西川商店ヨリ掛ニテ買入ル車力賃

¥15.-ハ現金デ拂ツタ。

B商品 150個 @ ¥6.- ¥900.-

"/22 西川商店ヨリ現金ニテ買入ル。

A商品 10個 @ ¥20.- ¥200.-

B商品 30個 @ ¥6.- ¥180.-

記入の仕方

仕 入 帳

昭和年	摘	要	内 譯	金 額
5/5	田中商店	掛		
	A商品 30個 @ ¥20.-			600-
"/14	西川商店	掛		
	B商品 150個 @ ¥6.-		900-	
		車力賃	15-	915-
"/22	西川商店	現金		
	A商品 10個 @ ¥20.-		200-	
	B商品 30個 @ ¥6.-		180-	380-
				1,895-

【註】 十四日西川商店取引の如く商品買入の際、支拂つた車力賃等は仕入原價の内に含ます。

締切の仕方 決算のとき締切る、其の方法は(1)金額欄の合計金額を算出し、(2)上圖の如く赤の單線を引き線の下に金額を記入し、(3)金額欄と月日欄との雙方へ赤二重線を引き、締切の印とする。合計して得た金額は其の期間の仕入總高を示す。

練習問題

- (1) 店デ使用スル自轉車ヲ一臺買フ其ノ場合仕入帳ニ記入スルカ、又ハセナクモヨイカ。
- (2) 十四日西川商店ノ商品仕入高ガ何故 ¥915.-トナツタカ。
- (3) 仕入帳ヲ能ク讀ミ次ニ其ヲ間違ナク寫シテゴランナサイ。
- (4) 次ノ例題ヲ記帳ナサイ。

5/5 乙商店カラ次ノ通り現金デ買入レ別ニ運賃 ¥5.-ヲ支拂フ。

A商品 10個 @ 12.50 ¥125.-

"/10 甲商店カラ次ノ通り掛デ買入ル。

B商品 20個 @13.40 ¥268.-

(5) 十四日西川商店記帳内譯欄金額ノ下ニア
ル赤ノ單線ハ何ヲ意味スルカ。

第六章 賣上帳

賣上帳は商品を現金賣又は掛賣した時、賣渡商品の明細を知る爲、(1)日附。(2)賣渡先。(3)現金又は掛の區別。(4)品名、數量、單價、金額等を記入する帳簿である。賣渡し商品が何かの理由で戻つて來た時にも、値引を承諾した時にも賣上高から其の金額を差引く爲に記帳する。

記入例題

5/8 本日小賣高次ノ通り。

A商品 2個 @ ¥25.- ¥50.-

"/11 杉田商店へ掛ニテ賣リ渡ス。

A商品 15個 @ ¥23.- ¥345.-

"/20 村井商店へ掛ニテ賣リ渡ス。

B商品 62個 @ ¥6.50 ¥403.-

"/22 村井商店宛掛賣商品ノ内次ノ品ハ破損ノ故ヲ以テ送り返サル。

B商品 2個 @ 6.50 ¥13.-

5/25 杉田商店へ賣渡ス代金ノ内 ¥200.-ハ現金ニテ受取り残額 ¥290.-ハ掛トス。

B商品 70個 @ ¥7.- ¥490.-

記入の仕方

賣上帳

昭和年	摘要	金額
5/8	本日小賣高 現金	
	A商品 2個 @ ¥25.-	50-
11	杉田商店 掛	
	A商品 15個 @ ¥23.-	345-
20	村井商店 掛	
	B商品 62個 @ ¥6.50	403-
22	村井商店 戻り品	
	B商品 2個 @ ¥6.50	13-
25	杉田商店 諸口	
	B商品 70個 @ ¥7.-	490-
	代金ノ内 ¥200.-ハ現金、残額 ¥290.-ハ掛	
		1,275-

【註】 賣渡した商品を種々の理由で送り返して來ることがある。其の商品を戻り品と云ふ。其の場合には賣渡代金の内から戻り品の代金を差し引く意味を以て、赤インクで金額欄に金高を、摘要欄に戻り品と記帳する。廿二日村井商店が其の例である。値引を承諾した場合も、又仕入帳へ返送品を記帳する場合も同様である。

締切の仕方 決算の時締切る。其の方法は仕入帳と同様である。唯戻り品又は返送品の如く朱記した金額のある場合は、先づ黒記した金額を合計し、次に朱記した金額を合計し、前者の合計から後者の合計を差引いて締切るののである。引いて得た金額は其の期間の賣上總高を示す。

練習問題

- (1) 賣上帳金額欄ノ合計ニ間違ハ無イカ、無ケレバ其ノ理由ヲ説明セヨ。
- (2) 賣上帳ヲ能ク讀ンデカラ間違無イ様ニ寫

セ。

(3) 次ノ例題ヲ記帳セヨ。

5/2 西川商店へ掛デ賣渡ス。

白砂糖 10俵 @ ¥ 25.- ¥ 250.-

赤砂糖 10俵 @ ¥ 23.50 ¥ 235.-

7/4 二日西川商店宛掛賣商品ノ内、次ノ品不良ノ爲メ送り返サル。

赤砂糖 2俵 @ ¥ 23.50 ¥ 47.-

(4) 戻り品トハ何か、何故戻り品ヲ赤字デ書クカ。

第七章 現金出納帳

現金出納帳は現金の収入又は支出を明細に記録し、毎日の手元有高を知る爲に設くる帳簿である。残高欄の金額と毎日の手許有高とは常に一致すべきものであるから、毎日之を突合せて検査せなければならぬ。

記入例題

5/1 現金 ¥ 1,500.- ヲ元入シテ營業ヲ始ム。

7/2 開業諸入費 ¥ 25.- 支拂フ。

- 5/ " 自轉車其ノ他什器買入レ代金 ¥ 100.- 現金
 デ支拂フ。
- "/ 8 本日現金小賣高 ¥ 50.-
- "/12 田中商店へ掛買代金ノ内 ¥ 400.- 現金デ
 支拂フ。
- "/14 商品ヲ買入レ車力賃 ¥ 15.- 現金デ支拂
 フ。
- "/22 西川商店ヨリ商品ヲ買入レ代金 ¥ 380.-
 現金デ支拂フ。
- "/25 杉田商店へ商品 ¥ 490.- ヲ賣渡シ代金ノ
 内 ¥ 200.- ハ現金ニテ受取り残額 ¥ 290.-
 ハ掛トス。
- "/28 村井商店ヨリ掛代金 ¥ 390.- 現金ニテ受
 取ル。
- "/30 本日次ノ通り支拂フ。
 家 賃 ¥ 50.-
 雑 費 ¥ 15.-

記入の仕方

現金出納帳

昭和 年	摘 要	收 入	支 出	残 高
5	1 現金元入高	1,500-		1,500-
	2 開業諸入費		25-	1,475-
	" 自轉車其ノ他什器代		100-	1,375-
	8 本日小賣高	50-		1,425-
	12 田中商店 掛代金内拂		400-	1,025-
	14 商品仕入車力賃		15-	1,010-
	22 西川商店 商品仕入代		380-	630-
	25 杉田商店 商品賣代金	200-		830-
	28 村井商店 掛代金受取	390-		1,220-
	30 次ノ通り支拂フ			
	家 賃 50.-			
	雑 費 15.-		65-	1,155-
	手許有高		1,155-	
		2,140-	2,140-	
	繰 越	1,155-		1,155-

締切の仕方 決算の時締切る。其の方法は
 其の時の残高金額を支出欄に赤インキで記入
 し、収入支出の兩欄を各々合計する。收支兩欄
 の金額が一致すれば記帳に誤りなき證據であ
 るから、其の下に赤線を引いて締切る。次に手

許有高を翌日の日附で収入欄と残高欄とに移記し、摘要欄には繰越と書いて繰越手続を終る。此の際何れも黒インキにて書く。

練習問題

- (1) 二日ノ残高ガ前日ニクラベテ何故 ¥100.- 減ツタカ。
- (2) 二十五日ノ残高ガ前日ニクラベテ何故 ¥200.- 増シタカ。
- (3) 手許有高ヲ支出欄ニ加ヘレバ何故収入支出ノ兩欄ガ一致スルカ其ノ理由ヲ述ベヨ。
- (4) 次ノ例題ヲ記帳セヨ。
 - 5/1 現金 ¥3,000.-ヲ元入トシテ營業ヲ始ム。
 - 7/2 營業用什器ヲ買入レ代金 ¥250.- 現金拂。

第八章 日記帳

掛買、掛賣、其の他貸借に關する取引を記入する帳簿を日記帳と云ふ。便宜上、掛買日記帳と掛賣日記帳とに別つ。

掛買日記帳 商品を掛買して借の出來た時、掛買金を支拂つた時、又は掛買商品を何等かの理由で返送した時記帳する。

記入例題

- 5/5 田中商店ヨリ掛ニテ買入ル。
A商品 30個 @ ¥20.- ¥600.-
- 7/12 田中商店へ掛代金ノ内 ¥400.- 現金ニテ支拂フ。
- 7/14 西川商店ヨリ掛ニテ買入レ車力貨 ¥15.-
ハ現金ニテ支拂フ。
B商品 150個 @ 6.- ¥900.-

記入の仕方

掛買日記帳

昭和年	摘要	元丁	支拂高	掛買高
5 5	田中商店 A商品掛買代	1		600.-
12	田中商店 掛代金内拂	1	400.-	
14	西川商店 B商品掛買代	2		900.-
			400.-	1,500.-
			1,100.-	
			1,500.-	1,500.-
6 1	繰越			1,100.-

【註】 掛買高は其の都度掛買欄に、支拂高は其の都度支拂欄に記入する。朱記した金額は、其の期間の正味掛買高を示す。

締切の仕方 掛買高の合計と支拂高の合計とを算出し、其の差額を支拂高欄に朱記し、双方の金額を平均せしめ、二重線を引いて締切る。摘要欄には支拂残高と朱記する。次に翌日の日附で掛買高欄に残高金額を、摘要欄には繰越と何れも黒記し、次期記帳の用意をする。

復習問題

- (1) 大西商店ヨリ掛ニテ買入ル。
靴下 10打 @ ¥ 5.- ¥ 50.-
- (2) 山本商店ヨリ掛ニテ買入ル。
一等白米 5石 @ ¥ 51.50 ¥ 257.50
- (3) 山本商店へ掛代金ノ内 ¥ 200.- 現金ニテ支拂フ。
- (4) 以上ヲ記帳シテ締切レ。

掛賣日記帳 商品を掛賣して貸の出来た時、掛代金を取立てた時、又は掛賣商品が何かの理由で戻つて来た時記帳する。

記入例題

- 5/11 杉田商店へ掛ニテ賣渡ス。
A商品 15個 @ ¥ 23.- ¥ 345.-
- "/20 村井商店へ掛ニテ賣渡ス。
B商品 62個 @ ¥ 6.50 ¥ 403.-
- "/22 二十日村井商店へ賣渡シタ商品ノ内次ノ品ハ破損甚シク返送シ來ル。
B商品 2個 @ ¥ 6.50 ¥ 13.-
- "/25 杉田商店へ賣渡シ代金ノ内 ¥ 200.- ハ現金受取り残額 ¥ 290.- ハ掛トス。
B商品 70個 @ ¥ 7.- ¥ 490.-
- "/28 村井商店ヨリ掛代金 ¥ 390.- 現金ニテ受取ル。

記入の仕方

掛賣日記帳

昭和 年	摘要	元 丁	掛賣高	取立高
5 11	杉田商店 A 商品掛賣代	1	345-	
20	村井商店 B 商品掛賣代	2	403-	
22	村井商店 商品ノ一部返却ナル	2		13-
25	杉田商店 B 商品掛賣代 諸口 内現金入 ¥200.-	1	290-	
28	村井商店 掛代金取立	2		390-
			1,038-	403-
	取立残高			635-
			1,038-	1,038-
0 1	繰越		635-	

【註】 掛賣高は掛賣高欄に、取立高は取立高欄に其の都度記入する。朱記した金額は正味掛賣高を示す。
五月廿二日村井商店の例の如く、賣渡し商品を返送し来た場合は、原價で買戻したと見て金額を取立高欄に記入し、掛賣高を相殺すればよい。

締切の仕方 掛賣高の合計と取立高の合計とを算出し、其の差額を取立高欄に朱記し、双方の金額を平均せしめ、二重線を引いて締切る。

摘要欄には取立残高と朱記する。次に翌日の日附で掛賣高欄に残高金額を、摘要欄には繰越と何れも黒記する。

復習問題

- 中村商店へ掛ニテ賣渡ス。
學生帽 1個 @ ¥4.50 ¥450.-
- 昨日中村商店宛賣渡シ商品ノ内5個破損ノ爲メ返送シ來ル。
學生帽 5個 @ ¥4.50 ¥22.50
- 中村商店ヨリ掛代金ノ内¥200.-現金ニテ受取ル。
- 廿五日杉田商店宛賣渡シ商品ノ代金ハ¥490.-デアルガ日記帳ノ掛賣高欄ニ¥290.-ト記入スルハ何故カ。

第九章 元 帳

掛買に関する事は總べて掛買日記帳に、掛賣に関する事は總べて掛賣日記帳に記録してある。其故、掛買日記帳を見れば他店に對する掛

買金の總高及び其の支拂殘高が判り、掛賣日記帳を見れば、掛賣金の總高及び取立金殘高等が判るが、最も大切な各取引先別の貸借が判らぬから、其等を明らかにする爲に元帳を作るのである。元帳は日記帳から轉記する。

元帳の口座 元帳には取引先毎に其の取引を記入する場所を設ける。其の場所を口座と云ふ。例へば田中商店との取引をつける場所を田中商店口座、西川商店との取引をつける場所を西川商店口座と云ふが如くである。而して元帳は掛買元帳と掛賣元帳との二つに別つ、委しくは元帳記入例を見よ。

掛買元帳 掛買高欄と支拂高欄とがある。掛買日記帳から轉記する。日記帳に田中商店とあれば元帳の田中商店口座へ、西川商店とあれば元帳の西川商店口座へ轉記する。以下同様である。

記入例題

本書17頁掛買日記帳から轉記すれば次の如くなる。

記入の仕方

掛買元帳

田中商店

1

昭和年	摘要	日丁	支拂高	掛買高
5 5	A商品 30個 @ ¥ 20.-	1		600-
12	掛代金内拂	1	400-	
			400-	600-
			支拂殘高 200-	
			600-	600-
6 1				繰越 200-

西川商店

2

昭和年	摘要	日丁	支拂高	掛買高
5 14	B商品 150個 @ ¥ 6.-	1		900-
			0-	900-
			支拂殘高 900-	
			900-	900-
6 1				繰越 900-

【註】(1)便宜上元帳には各口座毎に頁数を附す。

(2)日丁は日記帳の略、1は日記帳の1頁の意。

(3)日記帳から元帳への轉記を終らば、轉記済の證として日記帳の元丁欄へ轉記した元帳口座の

頁数を記入する。

(4) 日記帳の摘要欄は出来る丈簡単に記入し、元帳の摘要欄は仕入帳又は賣上帳を参照し、詳細記入するのが便利である。

(5) 上に述べた事は掛賣元帳の場合も同様である。

締切の仕方 掛買高の合計と支拂高の合計を算出し、其の差額を赤インキで支拂高欄に記入し、双方を平均せしめて締切る。摘要欄には支拂残高と朱記する。次に翌日の日附で繰越の手續をする。乃ち支拂高欄に朱記した金額を掛買欄に黒インキで記入し、摘要欄にも同じく黒インキで繰越と書く。若し掛買高の合計と支拂高の合計が一致すれば、其のまゝ締切ればよい。此の場合、掛買金全部支拂済故翌日へ繰越すものはない。

練習問題

(1) 本書18頁練習問題ヲ掛買日記帳ヨリ掛買元帳ニ轉記セヨ。

(2) 掛買元帳西川商店ノ残高 ¥ 900.- ハ 當店ノ

借金デアルカ、又ハ貸金デアルカ。

掛賣元帳 掛賣高欄と取立高欄がある。掛賣日記帳から轉記する。日記帳に杉田商店とあれば元帳の杉田商店口座へ、村井商店とあれば元帳の村井商店口座へ轉記する。以下同様である。

記入例題

本書20頁掛賣日記帳から轉記すれば次の如くなる。

記入の仕方

掛 賣 元 帳

杉 田 商 店

1

昭和年	摘 要	丁 目	掛賣高	取立高
5 11	A商品 15個 @ ¥23.-	1	345-	
25	B商品 70個 @ ¥ 7.- 諸口 内現金入 ¥200.-	1	290-	
			635-	0-
30		取立残高		635-
			635-	635-
6 1		繰 越	635-	

村井商店

2

昭和年	摘要	日	掛賣高	取立高
5 20	B商品 62個 @ ¥ 6.50		403-	
22	B商品 2個 @ ¥ 6.50 戻り品 破損甚ダシキ爲メ			13-
23	掛代金入金			390-
			403-	403-

【註】 (1) 掛買元帳の註を参照。

(2) 村井商店廿二日の取引の如く、掛賣商品が何等かの理由で返却された時は、其の品の代金丈を取立て済と見なし、取立欄に記入して掛賣高から差引くのである。

締切の仕方 掛賣高の合計と取立高の合計とを算出し、其の差額を取立高欄に朱記し、双方を平均せしめて締切る。摘要欄には取立残高と朱記する。次に翌日の日附で次期へ繰越の手續をする。若し村井商店の例の如く掛賣高と取立高が一致すれば、貸借は全部相殺されたのであるから、其のまま締切ればよい。

練習問題

21頁ノ練習問題ヲ掛賣日記帳カラ掛賣元帳ヘ轉記セヨ。

第十章 財産と資本

資産 とは現金及び現金に換へ得るものを云ふ。例へば商品・什器・株券・土地・家屋等の如き有形の物は賣却して現金に換へ、掛賣金・貸附金・預金等の如き無形の物も取り立て、現金とする事が出来るから、何れも資産である。

負債 之に反して將來現金を支拂はなければならぬ義務あるものは總て負債である。借入金・掛買金などが其の例である。

財産 と云ふ言葉の内には、資産と負債の兩方面を含んで居る。而して此の兩者は性質全く相反して居る。

正味財産 資産から負債を差引いた残の純資産を正味財産と云ふ。若し負債の方が資産を超過する時、負債から資産を差引いた残の純

負債は正味借財である。

資本又は資本金とは正味財産のことである。最も大切なる點は

資産 - 負債 = 資本

の式を堅く記憶することである。簿記で云ふ資本は決して現金をも、商品をも、土地・家屋をも指すのでは無い。單に資産と負債の差額を指して資本又は資本金と云ふのである。其故、資産が増して負債が元のまゝならば、資本(正味財産)は其丈増加し、又負債が増して資産が其のまゝならば、資本は其丈減少する。此のことは能く知つて居らねばならぬ。

練習問題

- (1) 資産トハ何カ、其ノ例五ツヲ示セ。
- (2) 負債トハ何カ、其ノ例二ツヲ示セ。
- (3) 正味財産トハ何カ。正味借財トハ何カ。
- (4) 資本又ハ資本金トハ何カ。
- (5) 次ノ例題ニツキ各商店毎ニ簡單ナ元帳ヲ作り、資産ヲ其ノ左側ニ、負債ヲ其ノ右

側ニ記入シ、正味財産(資本)ヲ算出シテ見ヨ。

(イ) 南商店 現金 ¥400.-, 借入金 ¥100.-,

(ロ) 北商店 借入金 ¥200.-, 現金 ¥300.-,

什器 ¥200.-,

(ハ) 東商店 現金 ¥300.-, 貸附金 ¥100.-,

掛買金 ¥400.-, 掛賣金 ¥200.-

(ニ) 西商店 掛賣金 ¥500.-, 預金 ¥600.-,

掛買金 ¥700.-, 借入金 ¥500.-, 現金

¥100.-

(ヘ) 丙商店 現金 ¥1,000.-

(ホ) 下記ノ甲商店へ現金 ¥200.-, 乙商店へ

借入金 ¥300.- 丙商店へ現金 ¥100.- 掛賣

金 ¥500.- 丁商店へ商品 ¥500.- 掛買金

¥500.- ヲ増加スレバ各商店ノ資本ハ(正

味財産)何程トナルカ。

甲商店		乙商店	
商品 500.-	借入金 600.-	現金 600.-	掛買金 800.-
金現 200.-	資本 100.-	商品 500.-	資本 1000.-
		掛買金 700.-	

丙 商店		丁 商店	
現金 400.-	掛買金 600.-	現金 300.-	借入金 500.-
商品 400.-	資本 200.-	什器 100.-	資本 400.-
		商品 500.-	

第十一章 決算 (其の一)

商人は營業の結果を調査する爲め、年二回又は一回適當の時期を定めて決算をする。決算の翌日から次の決算迄の間を一營業期間と云ふ。

決算の目的 (1)決算当日に於ける資産負債及び資本の状況を明かにする爲めに、資産負債表を作ること。(2)其の營業期間の損益を知る爲めに損益表を作ることが決算の二大目的である。之によつて營業の方針も定まるのである。

決算の手續 決算は次の順序で行ふ。

(1)諸帳簿を締切る。(2)棚卸表を作る。(3)資産負債表、損益表、及び財産日録を作る。

棚卸表 (1)商品残高は單に仕入帳と賣上帳とを突合せた丈では知ることは出来ぬ。紛失、破損等もある。其故、決算当日實地につき數量

を調べ、價格を決定する必要がある。(2)什器、建物等は使用の年限に應じて價格を減損する又相場の変動もある。其故、實地調査の上價格を見積らねばならぬ。之を棚卸と云ひ、作成する表を棚卸表と云ふのである。

棚卸表の見積價格 商品の様な賣る爲め持つて居る資産は、其の原價と時價とを比較し、何れか低き方の價額にて評價する。又什器の様な使用を目的とする資産は、其の消耗に因る減價を見積り之を原價から差引いた價格にて評價する。

棚 卸 表

昭和 年 月 日

摘	要	金額
商 品	現在高	
A 商品	23個 @ ¥20.-	¥460.-
B 商品	50個 @ ¥6.-	¥300.-
什 器		
	自轉車其ノ他 見積價格	85.-
		845.-

練習問題

次ノ棚卸高ニヨリ棚卸表ヲ作レ。

商品

A商品 120個 @ ¥ 5.80 ¥696.-

B商品 50個 @ ¥ 7.50 ¥375.-

什器

金庫自轉車其他 見積價格 ¥658.-

第十二章 決算(其の二)

資産負債表 決算当日に於ける、(1)資産負債の状態及び資本高と、(2)一営業期間に於ける損益高とを一目瞭然と判る様に作成する表を資産負債表と云ふ。其の形式は、表の左側に資産を、右側に負債をならべ、正味財産高を右側負債の下に記入し、左右を平均せしめたものである。

資産負債表

昭和 年 月 日

資産之部		金額	負債及資本之部	金額
現金	手元有高	1,155-	掛買金	二口 1,100-
商品	棚卸高	760-	正味財産	1,535-
什器	"	85-	現在資本	¥1,535.-
掛賣金	一口	635-	最初元入	¥1,500.-
			当期純益	¥ 35.-
		2,635-		2,635-

資産負債表の作り方

資産の部には

- (1) 現金出納帳から……手元有高を。
- (2) 棚卸表から……商品什器其の他を。
- (3) 掛賣元帳から……取立金残高合計を。

負債の部には

掛買元帳から……支拂金残高合計を轉記し、資産の合計から負債の合計を引けば、決算当日の正味財産が出るから、それを負債の部に加へ資産負債を平均せしめて締切る。

【註】 (1)取立金残高合計は掛賣日記帳の取立欄に

朱記した金額と一致する。

(2) 支拂金残高合計は、掛買日記帳支拂欄に朱記した金額と等しい筈である。

(3) 棚卸表に前拂家賃の如き資産に属する項目があれば、それは資産の部に、若し未拂利息の如き負債があれば負債の部に記入する。

純損益算出の仕方 決算当日の正味財産と前期正味財産とを比較し、増加して居れば其の差は純益を表し、減少して居れば純損を示す。若し前期営業期間中に元入増加又は引出を行つたら、前期正味資産に先づ其の額を加へ、或は減じて後比較するのである。

練習問題

(1) 次ノ資産負債ニツイテ資産負債表ヲ作レ。

最初元入 ¥ 1,500.- 商品棚卸 ¥ 300.-

什器見積高 ¥ 150.- 掛賣金 ¥ 400.-

現金 ¥ 200.- 掛買金 ¥ 350.-

(2) 次ノ元入高ヲ算出セヨ。

最初元入 ¥ 1,500.-, 元入増加 ¥ 500.-,

資本主引出 ¥ 300.-

財産目録 資産負債の明細書である。資産負債表には単に資産負債を分類した項目が表示せられて居るが、項目の内容を知ることが出来ぬ。其故、財産目録を作り、資産負債の内容を詳細に表すのである。

財産目録

昭和 年 月 日

摘	要	内	譯	金額
資産之部				
現金	手元有高			1,155.-
商品	現在高			
	A 商品 23個 @ ¥ 20.-	460	—	
	B 商品 50個 @ ¥ 6.-	300	—	760.-
什器	自轉車其他 見積價格			85.-
掛賣金	一口 杉田商店			635.-
				2,635.-
負債之部				
掛買金	二口 田中商店	200	—	
	西川商店	900	—	1,100.-
				1,100.-

第十三章 決算(其の三)

損益表 資産負債表の示す当期純利益が、如何にして生じたかを現はす損益表は、複式簿記に於ては、常に之を作成し得るも、本巻に述ぶる単式簿記に於ては、原則として之を作ることが出来ない。之れ単式簿記の大なる缺點である。併し營業が單純で、營業期間が短い場合には、38頁に述ぶる方法にて、平素諸經費の記入をなしをくことにより、此の表を作ることを不可能でない。然れども、或る利益項目や、損失項目が落ちて居ても之れを知ることが出来ないから、營業が稍々複雑になり、損益發生事由が多くなると、其の純利益額が、資産負債表の同金額と一致する正確な損益表を作ることは不可能である。

損益表

昭和 年 月 日

摘	要	損 失	利 益
利益之部			
商品販賣益			
賣上高	¥ 1,275.-		
棚卸高	¥ 760.-	¥ 2,035.-	
仕入高	¥ 1,895.-		
繰越高	0.-	¥ 1,895.-	140.-
損失之部			
諸 經 費			
開業諸雜費		25.-	
家 貨		50.-	
雜 費		15.-	
什器減價			
買入原價	¥ 100.-		
棚卸評價	¥ 85.-	15.-	
		105.-	140.-
		35.-	
		140.-	140.-
			当期純益

損益表の作り方 商店の利益は主として商品販賣益であるから、先づ商品賣買利益を見出し、其の内から諸經費を差引けばよい。商品販賣益の見出し方は、賣上高に棚卸高を加へ其の

内から仕入高と前期繰越高との合計を引けば、其の残りが販賣益である。之を表に示せば、

賣上高	¥ 3,000.-	
棚卸高	¥ 1,500.-	¥ 4,500.-
仕入高	¥ 2,000.-	
繰越高	¥ 1,500.-	¥ 3,500.-
販賣益	¥ 1,000.-	

而して諸経費の内には、給料・旅費・広告料・税金・通信費・運賃(仕入運賃を除く)・保険料・倉敷料・文房具費・電気料・瓦斯代・雑費・家賃・什器減價等種々の費用が含まれて居る。之等の諸経費は諸経費記入帳を設け、適當の項目に分類し、支拂の都度記入しおき、損益表を作る時に諸経費の合計を算出するも一つの方法ではあるが、規模の餘り大きくない店では、現金出納帳に下圖の如く損益欄を設け、経費又は雑収入受拂の都度損益欄に損又は益のマークをつけおき、損益表作成の時其等を合計して経費又は雑収入を算出するのが便利である。尙棚卸表及び其の他の書類に損費又は利益に屬する金額があれば、一つも漏さ

ず検出して損益表に記入すべきは勿論である。

現金出納帳

昭和年	摘要	損益	収入	支拂	残高
5	1 現金元入		1,500-		1,500-
	1 開業諸雑費	損		25-	1,475-
	2 自轉車其他什器代			100-	1,375-
	4 文房具代	損		10-	1,365-
	" 商品買代金			400-	965-
	" 本日小賣高		60-		1,025-
	10 雑収入	益	15-		1,040-
	15 掛代金受取		430-		1,470-
	30 本月分家賃	損		50-	1,420-
	" 仕入車力賃			10-	1,410-

【註】 三十日商品仕入に要する運賃は仕入商品の代價の内に含ませるから損益表に出してはならぬ。其故損益欄に記號を附する必要がない。

第十四章 第一例題

- 6/ 1 現金 ¥ 1,000.- ヲ元入シテ營業ヲ始ム。
 7/ 4 開業諸入費 ¥ 30.- ヲ現金ニテ支拂フ。
 7/ 5 机椅子其ノ他什器ヲ買入シ、現金 ¥ 150.- ヲ支拂フ。

- 6/5 田口商店ヨリ掛ニテ買入ル。
 甲商品 50個 @ ¥ 12.- ¥ 600.-
- "/7 鈴木商店へ掛ニテ賣渡ス。
 甲商品 40個 @ ¥ 14.- ¥ 560.-
- "/10 本日現金小賣高
 甲商品 5個 @ ¥ 14.50 ¥ 72.50
- "/15 山口商店ヨリ掛ニテ買入ル。
 乙商品 100個 @ ¥ 8.- ¥ 800.-
- "/18 田口商店へ掛代金ノ内 ¥ 450.- 現金ニテ支拂フ。
- "/23 近藤商店へ掛ニテ賣渡ス。
 乙商品 50個 @ ¥ 10.- ¥ 500.-
- "/25 山口商店ヨリ現金ニテ買入ル引取運賃 ¥ 20.- 別ニ現金ニテ支拂フ。
 甲商品 20個 @ ¥ 11.50 ¥ 230.-
 乙商品 20個 @ ¥ 8.- ¥ 160.-
- "/27 鈴木商店へ賣渡ス代金ノ内 ¥ 200.- ハ現金ニテ受取り残額 ¥ 300.- ハ掛トス。
 乙商品 50個 @ ¥ 10.- ¥ 500.-
- "/28 近藤商店ヨリ掛代金 ¥ 500.- 現金ニテ受取

- ル。
- 6/30 本日次ノ通り支拂フ。
 家賃 ¥ 45.-
 瓦斯代 ¥ 5.60
 雑費 ¥ 12.-
- "/" 本日決算棚卸次ノ如シ。
 商品
 甲商品 24個 @ ¥ 10.- ¥ 240.-
 乙商品 20個 @ ¥ 8.- ¥ 160.-
 什器
 机椅子其ノ他見積價格 ¥ 140.-

第十五章 第二例題

- 9/1 現金 ¥ 1,500.- ヲ元入トシテ營業ヲ始ム。
- "/" 自轉車其他店用什器 ¥ 150.- 現金ニテ買入ル。
- "/3 大山商店ヨリ現金ニテ買入ル。
 A商品 250個 @ ¥ 2.- ¥ 500.-
- "/5 川口商店へ掛ニテ賣渡ス。
 A商品 30個 @ ¥ 3.50 ¥ 105.-
- "/" 竹村商店ヨリ掛ニテ買入ル運賃 ¥ 10.-

現金ニテ支拂フ。

B商品 150個 @ ¥ 6.- ¥ 900.-

C商品 150個 @ ¥ 11.- ¥ 1,650.-

9/7 開店諸入費 ¥ 80.- 現金ニテ支拂フ。

"/8 河本商店へ現金ニテ賣渡ス。

B商品 20個 @ ¥ 8.50 ¥ 170.-

C商品 25個 @ ¥ 14.- ¥ 350.-

"/10 川口商店へ賣渡シ代金ノ内 ¥ 500.- ハ現金ニテ受取り残額 ¥ 625.- ハ掛トス。

B商品 50個 @ ¥ 8.50 ¥ 425.-

C商品 50個 @ ¥ 14.- ¥ 700.-

"/13 八代商店へ掛ニテ賣渡ス。

B商品 50個 @ ¥ 8.- ¥ 400.-

"/19 本日迄ノ現金小賣高 ¥ 230.- ナリ。

"/24 八代商店ヨリ掛代金 ¥ 400.- 現金ニテ受取ル。

"/30 竹林商店へ掛代金ノ内 ¥ 650.- 現金ニテ支拂フ。

"/1 本日次ノ通り支拂フ。

家賃 ¥ 50.-

給料 ¥ 30.-

雑費 ¥ 25.-

本日棚卸高次ノ通り。

商品

A商品 135個 ¥ 2.- ¥ 270.-

B商品 30個 ¥ 6.- ¥ 180.-

C商品 75個 ¥ 11.- ¥ 825.-

什器

自轉車其ノ他 見積價格 ¥ 145.-

第十六章 第三例題

11/1 現金 ¥ 1,500.- ヲ元入シ米穀商ヲ始ム。

"/3 開業諸入費 ¥ 52.- ヲ現金ニテ支拂フ。

"/4 自轉車其ノ他店用什器代 ¥ 100.- 現金ニテ支拂フ。

"/5 東商店ヨリ掛ニテ買入ル。

内地米 50石 @ ¥ 37.- ¥ 1,850.-

外國米 50袋 @ ¥ 8.50 ¥ 425.-

"/8 本日現金小賣高

内地米 2石 @ ¥ 39.- ¥ 78.-

- 外國米 10袋 @ ¥ 9.70 ¥ 97.-
- 11/10 西商店へ掛ニテ賣渡ス。
内地米 30石 @ ¥ 39.- ¥ 1,170.-
- "/15 東商店へ掛代金ノ内 ¥ 1,000.- 現金ニテ支拂フ。
- "/17 西商店ヨリ掛代金 ¥ 1,170.- 小切手ニテ受取ル。
【註】 小切手を受取つた時は、現金を受取つたと見て、現金出納帳につければよい。
- "/18 東商店ヨリ買入ル代金ノ内 ¥ 1,000.- 現金ニテ支拂ヒ残額 ¥ 2,150.- ハ掛トス。
内地米 50石 @ ¥ 37.50 ¥ 1,875.-
外國米 150袋 @ ¥ 8.50 ¥ 1,275.-
- "/20 北商店へ賣渡シ代金ノ内 ¥ 950.- ハ現金ニテ受取り残額 ¥ 2,340.- ハ掛トス。
内地米 60石 @ ¥ 39.- ¥ 2,340.-
外國米 100袋 @ ¥ 9.50 ¥ 950.-
- "/21 南商店ヨリ現金ニテ買入ル。
内地米 20石 @ ¥ 37.- ¥ 740.-
外國米 30袋 @ ¥ 8.20 ¥ 246.-

- 11/25 西商店へ掛ニテ賣渡ス。
外國米 70袋 @ ¥ 9.- ¥ 630.-
- "/30 本日次ノ通り支拂フ。
家賃 ¥ 50.-
給料 ¥ 35.-
雜費 ¥ 37.-
- 本日棚卸次ノ通り。
商 品
内地米 28石 @ ¥ 37.- ¥ 1,036.-
外國米 50袋 @ ¥ 8.50 ¥ 425.-
- 什 器
自轉車其ノ他 見積價額 ¥ 90.-

第十七章 第四例題

- 12/ 1 現金 ¥ 3,000.- ヲ元入トシテ營業ヲ始ム。
- "/ 2 營業什器ヲ買入レ代金 ¥ 150.- 現金ニテ支拂フ。
- "/ 4 三井商店ヨリ現金ニテ買入ル。
甲商品 100個 @ ¥ 7.- ¥ 700.-
乙商品 300個 @ ¥ 5.- ¥ 1,500.-

- 12/7 安田商店へ掛ニテ賣渡ス。
 甲商品 50個 @ ¥ 9.- ¥ 450.-
- "/9 三井商店ヨリ掛ニテ買入ル仕入運賃
 ¥15.-ハ現金ニテ支拂フ。
 甲商品 100個 @ ¥ 6.50 ¥ 650.-
- "/10 安田商店宛掛賣商品ノ内次ノ品ハ破損
 ノ爲メ返却シ來ル。
 甲商品 2個 @ ¥ 9.- ¥ 18.-
- "/14 岩崎商店へ掛賣シ配達運賃 ¥ 10.- 現金
 ニテ支拂フ。
 甲商品 50個 @ ¥ 9.50 ¥ 475.-
 乙商品 40個 @ ¥ 7.- ¥ 280.-
- "/16 安田商店へ掛ニテ賣渡ス。
 乙商品 50個 @ 7.- ¥ 350.-
- "/20 安田商店ヨリ掛代金ノ内 ¥ 700.- 小切手
 第五號ニテ受取ル。
- 【註】 小切手を受取つた時は、現金を受取つた時と
 同様と見て、現金出納帳につければよい。
- "/23 三井商店ヨリ掛ニテ買入ル。
 甲商品 20個 @ ¥ 7.- ¥ 140.-

- 12/25 本日迄ノ現金小賣高
 甲商品 10個 @ ¥ 9.- ¥ 90.-
 乙商品 40個 @ ¥ 6.50 ¥ 260.-
- "/ 三井商店へ掛代金 ¥ 500.- 現金デ支拂フ。
- "/26 岩崎商店へ賣渡ス代金ノ内 ¥ 100.- ハ現
 金ニテ受取ル残額 ¥ 300.- ハ掛トス。
 甲商品 30個 @ ¥ 9.- ¥ 270.-
 乙商品 20個 @ ¥ 6.50 ¥ 130.-
- "/28 本日次ノ通り支拂フ。
 家賃 ¥ 50.-
 給料 ¥ 120.-
 雑費 ¥ 25.-
- 本日決算棚卸高次ノ通り。
 商品
 甲商品 76個 @ 7.- ¥ 532.-
 乙商品 150個 @ 5.- ¥ 750.-
 什器 見積價格 ¥ 140.-

第十八章 第五例題

- 2/1 現金 ¥ 1,500.- ヲ元入シテ營業ヲ始ム。

2/2 机椅子自轉車衡器等ノ什器ヲ買入レ代金
¥ 250.-ハ現金デ支拂フ。

"1" 帳簿文房具等買入レ現金 ¥ 30.- ヲ支拂フ。

"13 昭和製粉會社カラ現金デ買入ル。

小麥粉 竹印 200袋 @ ¥ 4.20 ¥ 840.-

"16 大谷商店カラ掛デ買入ル。

小麥粉 松印 100袋 @ ¥ 4.- ¥ 400.-

"19 新井商店へ現金デ賣渡ス。

小麥粉 松印 80袋 @ ¥ 4.50 ¥ 360.-

"11 大谷商店カラ掛デ買入ル、別ニ引取車力賃
¥ 20.-ハ現金デ支拂フ。

小麥粉 松印 200袋 @ ¥ 3.90 ¥ 780.-

"14 中村商店へ掛デ賣渡ス。

小麥粉 松印 20袋 @ ¥ 4.50 ¥ 90.-

同 竹印 100袋 @ ¥ 4.70 ¥ 470.-

"1" 大谷商店カラ掛デ買入レタ商品ノ内次ノ
モノハ不満足ニツキ返送シタ。

小麥粉 松印 10袋 @ ¥ 3.90 ¥ 39.-

"16 昭和製粉會社カラ買入レ代金ノ内 ¥ 700.-
ハ現金デ支拂ヒ殘額ハ掛トス。

小麥粉 竹印 150袋 @ ¥ 4.10 ¥ 615.-

同 梅印 100袋 @ ¥ 4.30 ¥ 430.-

2/17 新井商店へ現金デ賣渡ス。

小麥粉 竹印 50袋 @ ¥ 4.80 ¥ 240.-

"19 本日現金小賣高。

小麥粉 松印 15袋 @ ¥ 4.60 ¥ 69.-

同 梅印 20袋 @ ¥ 5.10 ¥ 102.-

"21 村田商店へ掛デ賣渡ス。配達車力賃 ¥ 10.-
ハ現金デ支拂フ。

小麥粉 竹印 100袋 @ ¥ 4.80 ¥ 480.-

同 梅印 50袋 @ ¥ 5.- ¥ 250.-

"25 中村商店カラ掛賣金 ¥ 560.- 現金デ受取ル。

"27 川村商店へ賣渡シ代金ノ内 ¥ 500.-ハ現金
デ受取り殘額ハ掛トス。

小麥粉 松印 150袋 @ ¥ 4.50 ¥ 675.-

同 竹印 50袋 @ ¥ 4.70 ¥ 235.-

"28 本日次ノ通り現金デ支拂フ。

給料 ¥ 50.-

家賃 ¥ 60.-

諸雜費 ¥ 45.-

2/28 本日決算ヲ行フ欄卸次ノ通り。

商 品

小麥粉 松印 25袋 @ ¥ 4.- ¥ 100.-

同 竹印 50袋 @ ¥ 4.20 ¥ 210.-

同 梅印 30袋 @ ¥ 4.30 ¥ 129.-

什 器

机椅子其ノ他 見積價額 ¥ 235.

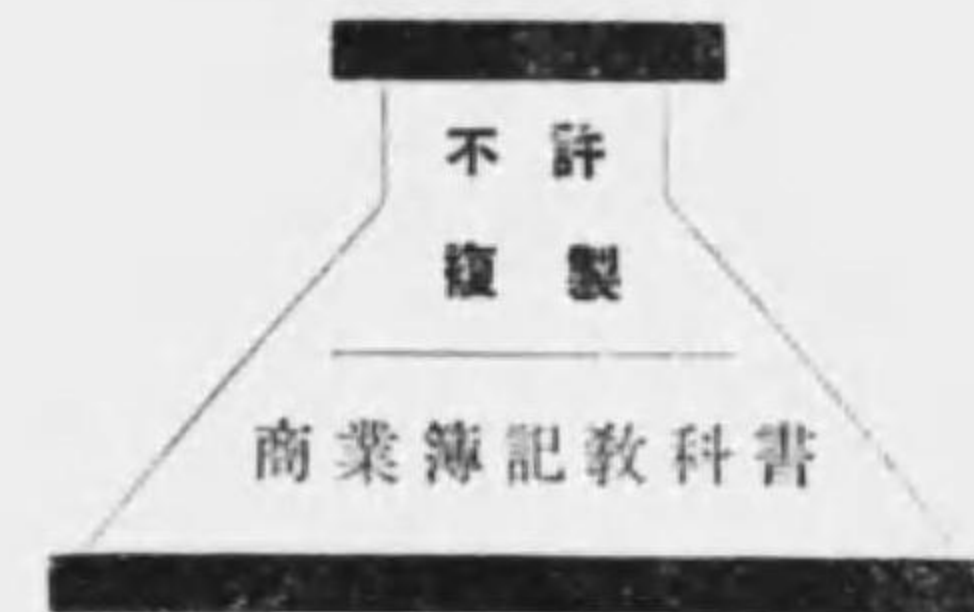
第十九章 前 進 課 程

以上吾等の學んだ所は單式簿記である。單式簿記は記帳の仕方が簡單で分り易いから、小賣商店等の小規模の營業者には廣く利用されて居るが、會社又は個人の大商店で取引關係複雑な所では、とても單式簿記によつて常に正確なる記帳を保ち、會計を整理し、營業狀態を明かにすることは不可能である。こゝに複式簿記の必要がある。以下下巻に於て複式簿記を述べやう。

商業簿記教科書 上巻終

昭和四年三月十八日印 刷

昭和四年三月三十一日發 行



上 卷 定 價 金 拾 四 錢

昭和四年度
臨時定價

金 貳 拾 參 錢

著 作 者 商 業 教 育 研 究 會

東京市本郷區本郷六丁目二番地

發 行 者 石 田 嘉 一

東京市神田區美土代町二丁目一番地

印 刷 者 横 山 喜 助

發 行 所 東京市本郷區本郷六丁目
電話小石川(三三七八番)
三二七九番
三〇九一八番
文 信 社

東 京 販 賣 東京市神田區錦町一丁目一番地 岩 田 文 憲 堂

東 部 販 賣 東京市京橋區銀座三丁目一番地 東 海 堂 書 店

西 部 販 賣 大阪市東區北久太郎町四丁目 柳 原 書 店

319
512

特254

884



終